

県立大の挑戦

英語力向上の裏側

〈上〉

県立大(佐世保市)の経営学部国際経営学科で、学生の英語能力が急速に伸びている。本年度の学部学科再編に伴い新設した同学科では、グローバル人材育成を掲げて語学教育を重点的に強化。3年生への進級要件となる英語能力テストTOEICでの「600点突破」をクリアした1年生は、入学当初の全60人中3人からわずか半年間で49人まで増えている。成長を続ける学生の姿を追った。(この連載は佐世保支社・中島宙が担当します)

9月初旬。県立大国際経営学科の1年生はフィリピンのリゾート地、セブ島にいた。「この文法を使って例文を作ってみようか」「この単語の意味が分かりませぬ」真新しい教室にずらりと並ぶ学習ブースからは、学生が現地講師と英

急成長

語でやりとりする声が続えず聞こえてくる。昨年11月に開校した日系語学学校「イデア・アカデミア」。TOEIC 600点を突破した学生は8月末から3週間、ここで英語漬けの日々を送っている。午前中は現地人講師のマンツーマン指導、午後

はグループ授業、夕食後は、同学科の必修科目だ。は自主学習。午前9時から午後9時までみっちり10時間以上勉強し、休日は日曜のみ。英語合宿しながらのセブ研修きた」



フィリピン人講師からマンツーマン指導で英語の文法を学ぶ県立大国際経営学科の学生=フィリピン・セブ島、イデア・アカデミア校

TOEIC735点の高野将太朗さん(18)は効果を実感。世界を股に掛ける職に就くという夢に向け、今日も現地で語学力を磨いている。

フィリピンで英語は、タガログ語と並ぶ公用語。ビジネス英語の通用度に関しては同国が「世界一」とするデータもある。こうした点に目を付けた韓国が約20年前、治安面でも比較的安安全とされるセブ島を語学研修先として開拓。「スパルタ式」とも呼ばれるマンツーマン中心の集中特訓スタイルを確立した。

「フィリピン人は英語に堪能だけど、純粋なネイティブではない。努力して習得した彼らだからこそ、熱心に、分かりやすく教えることができるんです」

みっちり「セブ合宿」

ズーム

県立大の学部学科再編の見直し、本年度の入学生から5学部9学科に再編した。人口減少が全国的な問題となる中、その動きが著しい県内各離島でのフィールドワークを全学生に必修化。国際経営学科のほかに、例えば国内で不足しているITセキュリティの技術者を養成する「情報セキュリティ学部情報セキュリティ学科」を新設するなど独自性を打ち出した。この結果、大学入試の志願倍率は6.3倍と前年度から2.2倍上昇している。